

最適なITインフラの実現を目指して 各業務システムのストレージ統合を実施。 「SANRISE9980V」で高い信頼性を確保

多種多様な業務システムを抱える企業にとって、IT資源の効率的活用は重要なテーマである。石油化学事業、化学品事業などを展開する昭和電工株式会社(以下、昭和電工)でも、ストレージ環境の再整備が大きな課題となっていた。従来は各業務システムごとにストレージが導入されており、運用工数やコストの増大などの問題が生じていたのである。そこで同社では、SAN(Storage Area Network)によるストレージ統合に着手。統合対象には重要な基幹システムも含まれていたが、日立のディスクアレイサブシステム「SANRISE9980V」を導入することで、高い信頼性・安定性を確保。さらにバックアップをはじめとする運用業務の大幅な効率化も実現している。



昭和電工株式会社
ビジネス・サポート・センター
情報システムグループ長
山田 慶一氏

長年培った経験を活かし 「個性派化学」で業界をリード

2000年にスタートした中期経営計画「個性派化学の確立」を展開中の昭和電工。現在は飛躍のための戦略的縮小を目的とした「チータ・プロジェクト」を終え、第2ステップである「プロジェクト・スプラウト」に移行している。世界でも同社だけが量産実用化に成功しているカーボンナノファイバーのような、ユニークな新製品を創造していくのがここでの狙いだ。

こうした戦略的な事業展開を行っていく上では、高度なIT環境の存在も欠かせない。山田氏は「情報システム部門としても、全社業務システムの集中化やSCM(Supply Chain Management)の構築など、ITの側面からプロジェクトを支援しています」と力強く語る。

山田氏は「R/3®のアップグレードの検討を進める中で、これを機会にITインフラ全体を見直すべきではないかと考えました。社内にはグループウェアやデータウェアハウスなどさまざまな業務システムが稼働していますが、導入時期が異なるなどの理由で環境がバラバラ。そこでこれらのデータをSANに統合することで、ITインフラの最適化を目指したいと考えたのです」と語る。

ストレージ統合にあたって要求されたのは、基幹システムに欠かせない高度な安全性と信頼性。それに業務継続性の確保と将来的な発展性である。金清氏は「たとえば特定のシステムをメンテナンスする際に、他のシステムまで止めなくてはならないようでは困ります。各システムごとに独立した対応が行えることが必要でした。また将来的な機能拡張や容量追加にも、柔軟に対応できる製品を導入したいと考えました」と振り返る。

同社システムの開発・運用・保守を手がける日立SC株式会社では、これらの要件を満たせるストレージ製品の選定に着手。その結果選ばれたのが、日立のディスクアレイサブシステム「SANRISE9980V」である。

青柳氏はその理由を「3つのストレージ製品を候補に挙げて比較検討を行いました。SANRISE9980Vは大規模基幹システムに



昭和電工株式会社
ビジネス・サポート・センター
情報システムグループ
マネージャー
金清 豊氏

「SANRISE9980V」を導入し ストレージ統合を推進

昭和電工では2003年より、ストレージ環境の再構築に乗り出した。そのきっかけとなったのが、基幹システムに導入されているERPパッケージ「SAP® R/3®」のバージョンアップである。



日立SC株式会社
ITソリューション事業部
主任技師
青柳 博氏

USER PROFILE

昭和電工株式会社
www.sdk.co.jp

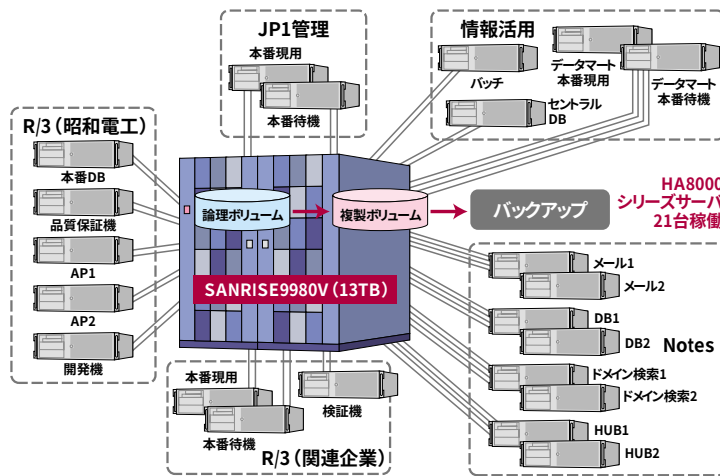
本社 東京都港区芝大門1-13-9
設立 1939年6月1日
創業 1926年10月5日
資本金 1,104億5,100万円
従業員数 4,094名
石油化学・化学品・無機材料・アルミニウム・エレクトロニクスなどの分野に事業を展開。無機・アルミ・有機に関する高度な独自技術をコア・コンピタンスとした「個性派化学」の確立を推進している

PARTNER PROFILE

日立SC株式会社
www.hitachi-sc.co.jp

本社 東京都港区港南2-16-1
品川イーストワンタワー
設立 1999年10月1日
資本金 9,000万円
従業員数 190名
化学・プロセス・マテリアル業界に特化したソリューション・プロバイダーとして、高品質なサービスを提供している

昭和電工のSANRISE9980VによるSAN接続概要



SANRISE9980V

おける実績が豊富で、信頼性や性能も申し分ない。また製品設計に日立のメインフレーム技術が活かされているなど、単純なカタログスペックとして現れない部分でも安心感が高かったですね」と語る。

バックアップ作業の 時間を1/5以下に短縮

SANRISE9980Vを導入したことで、従来は個別のストレージに格納されていたR/3・グループウェア・データウェアハウスのデータを、一カ所に集約することが可能に。これによりストレージスペースをより効率的に利用できるようになった。

また運用面においても、さまざまなメリットが生まれている。たとえば以前は各システムごとにバックアップ作業を行わなくてはならなかったが、現在ではこうした手間はまったく必要ない。また論理ボリュームの複製をほぼ瞬時に作成するSANRISEの「ShadowImage」機能を活用することで、バックアップ時間の大幅短縮も実現した。

「メンテナンス作業を行う際には必ずバックアップを取りますが、この時間を短縮することが運用上の大きな課題でした。というのも、以前はR/3のデータベースバックアップ

に約6時間掛かるなど、限られたメンテナンス時間の多くをバックアップ作業に費やさなくてはならなかったのです」と山田氏は語る。しかし現在では、ShadowImageで作成した複製ボリュームが利用できるため、極めて迅速にバックアップを行うことができる。青柳氏は「以前は6時間掛かっていたバックアップ作業が、15分程度で済むようになりました」と満足げに語る。

さらにR/3®システムの安定稼働にも、ShadowImageが貢献している。R/3®は本番機・開発機・品質保証機の3ランドスケープを採用しているが、この品質保証機で使用するテストデータにShadowImageで取得したバックアップを活用。品質保証機の環境を、極めて短時間で構築できるようになったのだ。山田氏は「以前は本番機のデータをテープで移し換えるのに、一週間程度の日数が必要でした。しかし現在では一日で作業が行えます。これも大きなメリットですね」と語る。

パフォーマンスが飛躍的に向上 信頼性・可用性も大幅アップ

SANRISE9980Vのパフォーマンスに対しても、高い評価が寄せられている。

「月末月初のピーク時には朝まで掛かってでもバッチ処理が終わらないこともありましたが、現在では以前の1/3程度の時間で処理が終えられます」と満足げに語る金清氏。万一何らかのトラブルが発生した場合にも、余裕を持って対応が行えると続ける。さらにR/3®のデータ検索処理なども、大幅にスピードアップしたとのことである。

効率的なSAN管理を実現すべく、ストレージ管理ソフトウェア「JP1/HiCommandシリーズ」も積極的に活用。

青柳氏は「JP1/HiCommand Dynamic Link Managerによるパスの二重化でアクセス性能と可用性の向上を図っているほか、JP1/HiCommand Protection Managerを用いてShadowImageによるSQL Serverのオンラインバックアップを実現しています。また今後はJP1/HiCommand Device Managerを活用し、SAN環境の統合管理に役立てたいと考えています」と説明する。

懸案であったストレージ統合を見事に成功させた昭和電工だが、将来に向けた検討も既にはじまっている。山田氏は今後の抱負を「SANRISE Universal Storage Platformによる仮想SAN統合なども視野に入れ、ストレージ環境の最適化をさらに進めていきたい」と語った。

●SAP、R/3は、SAP AGのドイツおよびその他の国における登録商標または商標です
●その他記載されている会社名、製品名は、各社の商標もしくは登録商標です

お問い合わせ

株式会社 日立製作所 RAIDシステム事業部 販売企画部
TEL.03-5471-2273 FAX.03-5471-2549 www.hitachi.co.jp/sanrise

SANRISE